



けやき

令和元年5月10日
東村山市立東村山第六中学校
学校だより 5月号
東村山市秋津町2-29-14

令和の時代に当たり

校長 大堀 浩

◆「時は、初春の令月にして、気淑（よく）風和らぎ、梅は鏡前の粉を披（ひら）き、蘭は珮後（はいご）の香（こう）を薫らす。」

「万葉集」の「梅花の歌」から、「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という思いを込め、今月より「令和」という新たな元号が始まりました。

これからの「令和」の時代にも、東村山第六中学校の生徒が自ら学び、将来、社会に貢献する「良き社会人」として活躍し、新たな時代をつくっていくことを願っています。

◆「失礼します。」と名前を名乗って礼儀正しく職員室に入ってくる生徒達の挨拶の声も、大きくなっているようです。礼儀や言葉遣い等は、一朝一夕に身に付くものではありません。社会に貢献する「良き社会人」になれるように、凡事徹底を図って参ります。ご家庭でも話題にしてくださいけると幸甚です。



【正門の花壇】

◆「六中生が、空堀川のごみを拾ってくれていました。」と近隣の方から教えていただきました。

登校途中にごみ拾いをする「LCU」（Let's Clean Up）を毎月行っていますが、「この町をきれいにしたい」というスローガンが生徒の身に付いているからこそ、いつも自然に行動できるのでしょう。とても素晴らしいことです。さらに、活動が広がることを願っています。

◆「みどりは地球の宝もの」のスローガンのもと「第30回 東村山春の緑の祭典」が4月29日に東村山中央公園で行われました。緑を守り育て、後世に伝えていくために、「緑の祭典」を通して市民に緑の大切さを啓発していました。中央公園の緑が目にも鮮やかな中、花や植木の販売や模擬店等で賑わっていました。その中でも、ごみ分別のボランティア等で中学生の活躍が多く見られました。地域にとって、中学生の力は大きく、果たす役割も増えています。いろいろな場面で、中学生が社会に貢献できることは素晴らしいです。

◆中間考査が終わると、運動会練習も本格化します。5月25日（土）の第41回運動会へ、多くの保護者・地域の方に来校いただき、ご声援くださいますようお願いいたします。今月も引き続きよろしくようお願いいたします。